|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| スライド 1 |  | 最後にまとめのスライドです。 |
| スライド 2 |  | 「共生社会の形成」を目指し、個だけでなく、集団にアプローチをする視点から学級経営や授業づくり、子供との関わりを考えていくことはとても大切です。しかし、まず大切にすることは子供一人一人を理解することです。子供への深い理解は、教師自身が幅をもって子供を見つめたり、関わったりすることにつながります。そのことにより、子供の困難さ、価値観、物のとらえ方について教師の理解にとどまらず、「みんなは、どうか」「似たようなことはあるか」など、一人一人が共有することで自分事として考える体験や実感ができるような積み重ねが大切です。そのことで、子供同士がやんわりとつながっていき、互いを理解することが考えられます。 |
| スライド 3 |  | また、多様性を認め合う集団づくりを目指すことは、「困難さ」のある子供のためだけではなく、すべての子供が過ごしやすくなることにつながります。子供を理解し、すべての子供の思いや願いが大切にされる集団を目指していくことこそ、子供がつながり、共生社会の形成につながっていくと考えられます。 |
| スライド 4 |  | 本ブックレットは、例えば「多様性を認め合う集団づくり」を実現するためには、「どんな価値観の共有が大切か」、「どんな関わり方が大切か」「今の自分の関わりは、多様性を認め合う集団づくりにつながっているだろうか」等を教師同士で日常的に考えたり、意見交換したりするきっかけに活用することが考えられます。そして、子供一人一人を大切に思い、関わっておられる先生方の一助となればと思っています。 |